

第1回 日本銀行金沢支店跡地先行利活用推進協議会

議事要旨

■日程・場所

日時：令和8年3月24日(火)10:00~11:10

場所：金沢東急ホテル 5階 ボールルーム

■発言要旨

(梅村委員)

○まずは当該地でいろいろなイベント等をやってみて、どういう人が集まりやすいのか、この場所ではどのようなイベントが当てはまるのか等、まずは数をこなしてみ、そのうえで検討していければよいと感じた。

(久保田委員)

○日銀の跡地を活用するためには駐車場が必要ではないか。

(事務局・本島企画調整課長)

○公共交通利用促進というも課題としてあるので、うまく両立できれば良い。

(宮下座長)

○新しい結節点、新しい場所として、また、市民に開かれるということになると、交通のあり方や、人の流れのデザインの仕方というのが非常に重要なポイントになってくる。そこには、車も入るし、歩行者や公共交通による人の動きということも併せて検討していく必要がある。

(小中委員)

○この場所は、70年余り一般の人々が入れなかった空間である。今後の利活用も含めて、本格利用も想定した実験をこの場所でやってもらう。それぐらいのイベントをいろいろやってほしい。

○日銀跡地を一つの中心的なものとして、さらには、周辺にホールなどもたくさんあるので、周辺の各ホール、あるいはしいのき迎賓館、本多の森周辺ゾーンなど、全体の連携もイメージしたような芸術祭をやってほしい。

○能登の復興が話題になっているが、金沢の中心部が元気のない状態では能登の復興もない。ここが頑張ると石川県全体が頑張れると、そんな地域にしていく必要がある。

○できるだけ多くの方々にご利用いただける、若い学生の皆さんに気軽に立ち寄っていただける空間にする必要もあろうかと思う。いろいろな団体に貸し出すことについても、積極的に検討してほしい。

○今後の運営に関して、例えば指定管理であるとか、行政がやるよりも地域の商店街など、民間の知恵を生かして、多様に使えるような工夫もぜひ進めてほしい。

(事務局・本島企画調整課長)

○当該地は、日本銀行が営業している期間も、市民が来訪する施設ではなかった。また、令和9年5月に金沢21世紀美術館が長期休館に入る。この大きな二つのトピックスがある中で、この場所をどう活用し、まちの賑わいをどう継続させていくのかが大きな課題と考えている。

(宮下座長)

○先行利活用ということでありながらも今後のことも踏まえた、実験という言葉があったように今後のことも踏まえた新しいチャレンジをしていく必要がある。また、運営のあり方や地域の関わり方など、単なる行政の建物という枠を越えて、オール金沢である場所を面白くしていくことが必要。そういう意味での運営も含めた実験、試み、チャレンジができるとういという非常に大事なご意見であった。

(坂野委員)

○この場所は、金沢の中心中の中心であるが、夜になると暗くてちょっと寂しい。誰もが通り過ぎてしまうような空間になっていると感じるし、外国人観光客の方もよく見かけるが、少し物足りなさそうな印象がある。

○また、この場所は、昼と夜をつなぐ拠点である。香林坊という繁華街と片町という歓楽街の結節点にあるということで、金沢の夜の流れをつくる入口になり得る非常に重要な場所だと思っている。

○金沢は文化都市や観光都市ということで非常に高い評価を受けているが、ナイトタイムエコノミーに関しては、まだまだ伸び代がある。金沢の場合、飲食や歓楽というものもあるが、それだけではなく文化を切り口にするのが大事だ。

○地下金庫室を活用した展示やロビー空間でのイベント、外構の広場化ということが示されているが、これらは昼だけではなく夜にも展開することで、この場所は夜にも人が集まって滞在する、金沢らしいナイトカルチャーの拠点、夜の文化拠点になる可能性は十分にある。

○地下金庫という特性を生かしてライトアップに工夫を凝らして、夜の美術館というようなコンセプトにすることもあるかもしれない。特に金沢の工芸や金箔は光との相性が非常にいいと言われているので、夜の静けさの中でこそ価値が引き立つような文化ではないか。夜なので静かに音楽に浸るといったようなことがあってもいい。

○広場というものも、単に明るい空間、昼はそれでいいが、陰影のある落ち着いた夜の広場という設計もしてはどうか。夜でもゆっくり時間を過ごしたくなるような空間も面白いのではないか。この場所に、夜の文化を目当てに人が集まって、片町へと繋がるような流れをつくる、そういう金沢の文化の入り口になる可能性がある場所ではないか。

○音楽を軸にした県市連携のナイトカルチャーみたいなものを発信していくことも一つの方向性と考えている。先行利活用の期間は、こうした夜の使い方を試す、実証実験の場としても非

常に意義があるのではないか。

(事務局・本島企画調整課長)

○施設1階のロビー空間は、天候に関係なく使える場所である。そこでいろいろな実験的な取り組みをしながら、夜の時間を過ごし、香林坊・片町に人が流れていくような実験をできれば良いと考えている。

(宮下座長)

○ナイトタイムエコノミーについて、金沢はかなり前からそこが一つの課題だということ言われていた。この場所は、非常に良いきっかけになり得る場所ではないか。金沢の新たな夜の楽しみ方として、今までの楽しみ方に加える場所として非常にいい場所ではないかと感じた。

(杉田委員)

○イベントを行うには、ものすごく得難い場所だなと感じた。屋外から人の流入が見込める広い屋内空間があるというのは、すごい要素なのではないか。

○この場所はそもそも学生も地域の方も観光客も集まりやすい場所で、そこに開放的な広い裏庭のような空間に加えて、屋内にもイベントを行うことができる広い空間があり、さらに大通り沿いからも入りやすい立地。イベントの幅が広がる場所だと感じた。

(事務局・本島企画調整課長)

○金沢には、高等教育機関が多数あり、3万人ほどの学生がいる。若い人たちにこの場所を使っただけで、若い人たちにまちなかに出てきてもらう、そのようなきっかけとなる場所になれば良いと考えている。

(宮下座長)

○金沢は学生のまち。ぜひ市民と観光客と学生と、さまざまな方たちがつながる結節点という意味でも、素晴らしい場所になっていけば良い。

(徳田委員)

○令和6年1月に「日本銀行金沢支店跡地あり方検討懇話会」が取りまとめた4つの機能として、「魅力・品格」「回遊・交流」「多様・滞留」「文化・活動」がある。当時、本格的な利活用にとって大事な視点ということで取りまとめられた。この考え方は、先行利活用の検討に当たっても十分留意する必要があると考えており、先行利活用の基本的な考え方にはこうした点も十分留意して議論されてはどうか。

○先行利活用のタイムスケジュールについて、21世紀美術館休館中の仮移転先としての期間が令和9年5月から約1年間ある。仮移転先としての利用期間が過ぎた後、地下金庫室をどのように活用するかという観点も大事であり、21世紀美術館の仮移転先になっており来館者が金庫室に入れず外から金庫室の中を見る期間とそれ以降の期間に分けて、先行利活用を考え

ていく必要があるのではないか。

- 外構の壁を取り払うということは大変大切な視点であり、長町武家屋敷との回遊性が向上する。事務局案では、壁のところに階段が付いているということではあるが、もう少し何か工夫をして外との回遊性を向上できるような知恵がないか考えてはどうか。
- 他の旧支店の利活用では、それぞれ民間の指定管理者が工夫を凝らしている状況である。県立施設では、近くにあるしいのき迎賓館も貸館と自主事業として利用されており、賑わい創出の方法で参考になる点があれば取り入れてもらいたいと思うし、連携という視点が必要ということになれば、しいのき迎賓館との連携という点についても議論してもらえればと思う。

(事務局・本島企画調整課長)

- 令和6年に取りまとめた4つの機能は、先行利活用においても方向性は変わらないもので、跡地に求められる機能として本市も認識しており、それをベースとして進めていきたい。
- 地下金庫室の使用に関しては、法律をクリアするための条件がある。それらの条件を含めて、今後どのような活用ができるか検討していきたい。
- 賑わいを継続させていくためには、行政だけではなく民間の力が必要になってくるので、民間の知恵もお借りしながら賑わいの継続に向けて取り組んでいきたい。

(西尾委員)

- 他県の四つの旧支店の活用事例の紹介があったが、運営主体は民間の指定管理事業者とのことなので、どのような事業者が運営しているのか、大変興味深い。
- 今後の運営主体について、民間企業やまちづくり会社など、いろいろなものが想定されると思うが、今後の先行利活用を検討する中で、運営主体をどのような方向性で考えているのか。

(事務局：本島企画調整課長)

- 先行利活用においては、市が施設管理をしながら民間の力も借りることになると考えている。まずはこの場所を開放することを前提に、どのような形で民間の力をお借りできるかという点は、これからの検討課題としたい。

(西野委員)

- 日銀金沢支店跡地の建物の耐震性能は既に確認されているのか。銀行の建物なので重厚かと考えているが、これから先行利活用と本格利活用を考えるうえで確認させてほしい。
- 先行利活用というのは、本格利用の実験的な位置付けという点で非常に納得する部分である。実験であるがゆえに、その検証がとても大事であるが、どういう観点で評価するのか。人がたくさん来たらいいのか。逆に人が来なくても、それが実験の結果分かったということになるので、失敗とは言えない。その点は先行利活用が自由さを持っているところだ。いろいろ評価視点があると思われるが、非常に大事な部分であるので、検証の方法をしっかりと考えてもらいたい。
- 先程ナイトタイムエコノミーの話題があったが、このホールはブルーノートのようにになると

意外と良いかもしれないと想像していた。

- 最近、サードプレイスという言葉がある。昼間に市民がまちなかに戻れるように、いられるように、自宅と学校・職場以外の第三の場所として、市民が居心地の良い場所になると良い。おそらく、この周辺で一番成功しているのは、石川県立図書館ではないか。金沢は県都であり、そのような場所が一つではなくて、二つ三つあっても良いのではないか。

(事務局：本島企画調整課長)

- 耐震性能は頑丈な造りとなっており、問題ないと考えている。
- 実験の検証については、いろいろな形で市民にアンケートも取りながら、これからの実験の中で、居心地よい空間にしていきたいと考えている。

(宮下座長)

- チャレンジをしていくがゆえに、その検証をしっかりと、それが先行利活用だけではなく、本格活用に向けた一つの良い流れをつくっていけるという御意見であった。

(細川委員)

- 周辺には金沢学生のまち市民交流館やクラソ・プレイスなど、先行利活用の具体的な内容と重なる機能を持ち合わせている施設がある。それらの施設とどう差別化をして、市民が集いやすい施設にしていくのかという点を、今後の議論に加えていけたら良いのではないか。
- 金沢駅や近江町、武蔵ヶ辻、広坂、南町、尾山神社、東山には、観光客がすごく集中しているように見える。香林坊エリアは、立地的にも公共交通機関が何本も通っている部分であり、この場所が、より観光客も訪れやすいような場所として機能すれば良い。
- 開放的な空間を提供する一方で、想定している広場が本来の目的とは異なる使われ方にならないか、そのような点にも注意しながら議論できれば良い。

(事務局・本島企画調整課長)

- 安全・安心ということは大事な視点と考えている。ナイトタイムエコノミーの話題もあり、夜間の開放時間なども今後検討が必要であるが、市民も来街者も安全に楽しく利用できるという点が重要と考えている。

(諸江委員)

- 先行利活用がどんどん進んでいくと、壊して建て直すという話が無くなってしまわないかと懸念している。先行利活用ではなく、その後の本格活用を議論する際には、壊して何か新しいものにする可能性があることは視点として持ってほしい。
- 昭和にこのようなものが建てられたということは、金沢の重層的な文化になっていると思うので、その視点も大切にしていきたい。
- 東急ホテル側の道路について、専用の階段を付け、歩道として表通りから長町武家屋敷の方に行けるようにした方が、安心してまちをめぐることができるのではないか。

○建物裏手の階段について、長町武家屋敷と表通りがつながる結節点としてとても重要なところなので、うまくつなげるようにしてほしい。

(事務局：本島企画調整課長)

○東急ホテル側の段差について、地下部分には雨水の貯留施設等があり、どのような形で回遊性を持たせるかというのは今後の課題であり、それは本格整備に向けての話にもなるかと考えている。

○現建物を壊す、壊さないについては、まだ議論していないが、街区全体での本格整備を見据えた時に、先行利活用で使ってみて、いろいろな課題が出てくると思われるので、使い勝手も含めて、今後の検証になろうと考えている。

○建物裏手にある塀について、地域住民の方から圧迫感があるとのことがあり、まずは塀を撤去して開放するところから始めたい。また、どのように回遊性を持たせるのかについては、今後の課題と考えている。

(米沢委員)

○公共の場所で社会的実験ができるというのは非常に良いことだと思うが、先行利活用の期間について、何年ぐらい利用できるのか、それが決まらないと、何をやろうかという議論は非常に難しいのではないかと。

○他県において活用されている旧支店については、それぞれが文化財であり、建造物を残して活用している。旧金沢支店については、そのような建物ではないので、撤去すべきだと考えているが、先行利活用の中で、どの部分を活かそうという議論はあっても良いのではないかと。

○21世紀美術館には、たくさんの作品があり、21世紀美術館の展示物がまちじゅうにあるというのも一つの手かなと考えている。いろいろな空間に、21世紀美術館がまち全体に散らばるという話も、ここをスタートとしてあっても良いといいのかなと感じている。

(事務局：新保副市長)

○いずれかの段階で、先行利活用の検証を含めて期限というものを切っていくてはいけない。それは街区全体を見据える中で、どのようにして進めていくかということをごどこかの段階でやらせていただく。少なくとも3年なのか5年なのか、どこで区切りを付けるかという点は考え方を提示させていただかなくてはならないと考えている。その中で、建物を残すのか、建物を壊して新しいものを建てるべきかというのは、当然、議論として出てくるだろうと考えている。

(米沢委員)

○建物については、今のような巨大なものではなく、時代に合った、例えばドーム型のようなものや、広い空間を生かした小さいものが考えられるのではないかと。新しく大きなものを建てるという考え方は一回なしにすればいいのではという気がする。

(事務局：村山市長)

- 高さ制限については 45m の制限エリアであるので、現在、上の空間が無駄になっている部分ではあるが、無駄は無駄として残しておくという議論もあると考えている。今後、高さをどうするかということもこれからの議論になっていくと思うが、無駄を持っていくことが金沢の余裕なのだという見方も出てくるだろうし、そこは、これから議論できればと考えている。
- 具体的に何年という形の利活用期間については、相手方もあり、申し上げられないところではあるが、そこは対話を進めていきながら、めどが見えたところで、ここをあと何年だという形で区切っていくことになると思う。当面はこのような形で使っていくということで、ご了解をいただきたい。

(宮下座長)

- 先行利活用の期間がどれくらいになるかということも、いずれより明確になっていく。この場所を少しでも早く皆さんに使っていただき、またどのように活用し得るのかということの一つのチャレンジの場、実証実験の場として、新しい場づくりに向かっていく。そこから課題や要望などいろいろなものを吸い上げ、最終的には本格活用に向けたデザインがどのようなものであるべきか、建物を残すのか残さないのか、どのように使うのか使わないのかという点も含めて考えていくための議論の場となれば良い。
- 今回、委員の皆さまからいろいろなお話をいただいた。その中で、活用の方法だけではなく運営のあり方、それから地域全体、周辺への影響をどのようにうまくデザインしていくかということも、皆さんからご意見をいただくことができた。ありがとうございました。